

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101495		
法人名	特定非営利活動法人 ゆめ家族		
事業所名	平和が丘ケアホーム		
所在地	宮崎市平和が丘西町31-3		
自己評価作成日	平成22年8月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4570103244&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に地域に開かれた施設を目指し、一人暮らしや介護家族の相談や支援に、積極的に応えていきたい。また、グループホームの職員と家族が連携することにより、安心の場を認知症の人に提供できるものと信ずる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族や地域と協力し、認知症の人が安心して生活でき、家族のようなきずなを結ぶ支援をすることを、管理者・全職員で共有し、日々実践している。玄関にイスとテーブルを置き、利用者や地域の人との会話を楽しんだり、一人暮らしの高齢者をホームと家族で話し合い、夕食だけをホームで食べるよう支援したりと地域への貢献度は大きい。また、地域行事への参加も心がけている。災害対策も、地域の協力の下、定期的に訓練している。地域の集会で、認知症についての講演をしたり、実習生を受け入れて後継者の育成にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域と協力し認知症の人が安心して生活でき、家族のような絆を結ぶ支援をする」という理念を共有できるように月に一回ミーティングを行い、また、本人らしいケアの実践に結びつくよう毎日の申し送りでも話し合っている。	理念を色紙に記載し、季節の花を添えて見やすい所に掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加しながら交流している。また、自施設の二階の一部屋をサロンとして開放し、地域の方々に利用していただいている。	管理者と職員は、地域の方から寄せられる介護等の相談について話し合い、支援をしている。また、地域の行事にも参加したり、ホーム内にサロンを作り、地域の人が立ち寄りやすい雰囲気をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座や認知症の人と家族の会などで理解や支援の方法などを伝えられるような機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、自施設内外の報告をしている。また、会議で出され内容をミーティングで職員に報告し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者やサービスの現状、参加者からの意見、評価への取り組みの報告等が話し合われている。また、災害対策についての議題も出され、スプリンクラーの取りつけも早期に完了している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宮崎市より認知症チームケア推進事業の委託を受けるなど、研修を通して連絡を取り合い積極的に取り組んでいる。	運営者が認知症の地域講師をしていることもあり、市町村と共にホーム全体で協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に積極的に参加し、また、ミーティングなどでも話し合い、身体拘束をしないケアを常に意識しながら支援している。	利用者の人権を守ることがケアの基本であることを、代表者・全職員が認識しており、日中も玄関の鍵を開放している。意識して毎日のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が、虐待防止に努め、入居者の日々の心身の変化に充分気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者からミーティングで説明があり、制度について理解しようと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心にご家族に対して、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも話が聞けるような機会を日ごろから設けており、気軽に意見や要望を受け入れられるような雰囲気をつくっている。	年1回の家族会や行事の後に、家族のみで話し合い、入居者や家族の要望をまとめたものを提出してもらっている。ホームでは、来訪時の聞き取りや、外部からの意見も取り入れ、向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングで、その都度話す機会を設けている。	月1回の話し合いの場をもち、仕事上での意見や悩み等、それぞれが気づいたことを言える雰囲気づくりを大切に、働く意欲や質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に話を聞いてもらっているが、もう少し話し合いをする機会を増やしてほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会があり、積極的に参加している。研修の報告は、ミーティングで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議・グループホーム連絡協議会・センター方式推進事業や研修などを通し、交流する機会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族から話をよく聞き、受け止め寄り添うことを心がけ、本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、何でも相談していただけるような信頼関係を作っており、協力合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とよく話し合い、管理者・職員全員で、本人、家族が安心できるような支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が日常生活を共に送っていく中で、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、本人の状態を伝えたり、時には、食事介助などで関わりを持っていただき、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、面会・外出・外泊などを支援し、また、お便りを発行して支援に努めている。	ボランティアや地域の方、家族を受け入れ、自分の身内だけでなく、他の利用者とも家族のように会話ができる雰囲気づくりに努めている。また、利用者が使用していた物を飾り、会話を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでゆっくりくつろいで過ごしていただく環境づくりに努め、職員が利用者の間に入るなどして、支え合う支援に努めている。時には、利用者同士のコミュニケーションが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を連絡し合ったり、相談や支援にのれるような関係を大事にするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の情報収集に努め、家族の思いも含め本人らしさを大切に支援に努め、ミーティングなどで話し合っている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)の24時間シートを利用し、利用者の思いや意向を知るために、全職員で感じたり気づいたことを共有している。また、家族の意見を良く聞き、把握するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用しながら会話・言葉・行動をよく観察し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りなどで話し合い、また、家族やその他の関係者との話し合いを反映できるような計画を作成している。	毎月のミーティングや、毎日の申し送り、職員の意見を基にケアプランを作成している。時には、家族や掛かりつけ医にも意見をうかがい、利用者の生活に反映できるよう、現状に即した介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のシートを活用しながら気づきや情報を共有し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や話をよく受け入れ、支援やサービスに取り入れるよう努めている。また、自施設の一部屋をサロンとして開放し、地域の方とのつながりを大切にしている。		

宮崎県宮崎市 平和が丘ケアホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアへ通ったり、地域の行事に参加したり、また、近くのスーパーに買い物に行ったり、散歩したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医を持ち、定期往診や外来受診など信頼関係を保ちながら支援している。また、歯科往診も月に一回ある。	掛かりつけ医は月2回の往診、また、歯科医による往診もある。歯科医が往診時に利用者の食事状況を観察し、職員が口腔ケアの指導を受け利用者に実践した結果、昨年はインフルエンザや風邪にかからなかった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師である管理者にすぐに報告し、すぐに対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をとりながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化が生じた場合、その都度家族・かかりつけ医と話し合い、同じ思いで支援していけるよう取り組んでいる。	終末期や重度化した場合のことは、入居時に話し合いをしている。容態の変化がみられた場合は、家族と掛かりつけ医、ホームで十分話し合えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練については、定期的に行っている。今後は、地域の協力を得られるような訓練を行いたい。また、災害発生時に備えて、食糧・飲料水を保管している。	防火対策や災害発生時には、地域との協力体制も整っており、夜間訓練でも近所の方々の参加が多かった。訓練時の書類も整理されていた。また、災害発生時の必要物品も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやその人に応じた対応は、常に尊重し工夫している。	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや行動に心を配り、職員全員で常に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の意思の確認を行っており、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり、本人のペースに合わせ、希望に添えるような支援が取り組めるよう職員同士連携をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合ったおしゃれ・身だしなみに気をつけている。また、家族から以前どうであったかを教えてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせて寄り添い、常に声かけしながらできることを支援している。献立は、目でも楽しめるように季節の物を入れたり、彩りなども大事にしている。	個々の能力に合わせ食材の話をしたり、声かけをして笑いを誘い、楽しい雰囲気作りを工夫している。来訪の家族や職員は、利用者の間に座り、同じ物を食べながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態をみながら栄養のバランスや量などを考え、その人の習慣を保ちながら支援している。また、水分補給には、充分気をつけ、こまめに水分を取ってもらったり、お茶や紅茶・牛乳などいろんなものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを丁寧にその人に合ったやり方で行っている。また、毎月歯科医の往診がある。		

宮崎県宮崎市 平和が丘ケアホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式のシートを活用しながら利用者の排泄パターンを知り、行動や時間を見て声かけし、自立に向けた支援を行っている。できるだけ日中は、布パンツとパットで過ごしていただいている。	声かけに重点を置き、自立につながる支援をしている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)による観察は、排泄介助に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に応じた便秘対策をかかりつけ医と相談しながら支援している。また、食事は繊維質のあるものを取り入れ、水分補給にも充分気をつけ、水分が取れないときは、ゼリーなどで代用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日その日のタイミングや状態を把握しながら支援している。また、利用者が安心して入浴できるようにその人に合った工夫をしている。	利用者のその日の希望を確認し、言葉かけを多くして、一人ひとりが気持ちよく入浴出来るよう支援している。	
		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った時間や声かけなどで対応し、安眠できるよう支援している。その人に合わせて、日中、居室で休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、処方日に日付・時間・名前などを記入し、薬シートにセットする。服用の際は、充分確認しながら行っている。薬については、職員全員が理解しており、状態の変化にすぐ気づくよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にとっての楽しみや嗜好品などを理解し、気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には難しいが、家族の面会も多く、家族と一緒に外出・外泊されたりと家族と協力しながら支援している。	近くの公園に、弁当持参で花見に行ったり、本人の希望に沿えるよう、家族の協力を得て実施している。また、玄関前にテーブルといすを置き、近所の人との会話を楽しみ、外出困難な方に対しての工夫や支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態や希望に応じて支援しているが、なかなか取り組む事が難しくなってきたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ゆめ家族便りを発行し、家族に届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節感や生活感ができるように工夫している。行事に合わせて、お雛様や七夕飾り・クリスマス飾りなどリビングに飾り季節を感じてもらえるよう支援している。	テーブルに季節の花が生けてあり、利用者同士でそれを見て話が弾んでいる。ソファでは歌をうたったり、皆で作った壁掛けが飾っており、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最近、リビングにソファを置き、その場所が居心地のよい場所になっている。ベランダや玄関先の庭にイスを置き、たばこを吸ったり景色を見たりと外の空気に触れゆっくりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には、それぞれのなじみの物を置いたり、写真を飾ったりと工夫している。	本人や家族と相談をしながら、以前から使っていたなじみのタンスや寝具などを配置し、壁には、利用者の趣味で作った小物や絵が飾っており、心が安まるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるよう表示をするなど工夫している。また、バリアフリー・手すりなどの設置の工夫もしている。		